

「自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成」
～学ぶ意欲を持ち、支え合う集団づくりを目指して～

I 主題設定の理由

本年度の研究主題を設定する上で、勝沼中学校の学校経営における基本方針を確認した。その上で、校内研究としてどのような視点で進めていくかを検討した。学校経営の基本方針の中には、「確かな学力を育む」「豊かな心」「健やかな心と体の育成」「信頼される学校づくり」という言葉が含まれている。これは、甲州市で進める「確かな学力」育成プロジェクトの3つの柱である「授業づくり、授業改善」「学級づくり、集団づくり」「保護者、地域住民等との連携」と一致している。ゆえに、市のプロジェクトを基にし、さらに質を向上させる取り組みを学校独自で行うことで、基本方針を実現できると考えた。また、勝沼中の校歌の歌詞の中には、「学舎は常に愉しく」という言葉があり、その「愉しさ」を「意欲的に学ぶ楽しさ」と捉えて、今年度は副題の中に「学ぶ意欲」という言葉を盛り込んだ。特に「授業づくりと授業改善」に力を入れていくことになった。本校の生徒は明るく素直である一方で、教師の指示がなければ行動できない生徒や家庭学習の定着などの課題があげられている。校内研究としては、PDCA+S（共有）という考え方で、授業づくりや集団づくりにおける知識や技能を学校全体で共有することで、学校力の向上を図り、生徒の自主的な行動へとつなげていきたい。

「一人の一步よりもみんなの一步」を合い言葉に、生徒のために教師集団が一丸となって研究を進めていく。

II 研究の具体的内容と方法

(1) 授業づくり、授業改善に関わって

- ア NRT検査や全国学力学習状況調査、県学力把握調査を分析し、改善を図る。
- イ 「見通し・振り返り」学習活動を基盤にした授業を展開する。
「導入・展開・まとめ」の流れを明確にする。（授業の構造化）
「今日の目標」「今日のポイント」「今日の授業の振り返り」を提示することで、メリハリのある授業を行う。
- ウ QU分析の結果から、学級集団に合った授業法を考える。
- エ 甲州市「ティーチャーズノート」の活用や評価方法の検討

(2) 学級づくり、集団づくりに関わって

- ア 学校全体で授業評価シートを使い、基本となる授業規律を確立する。
- イ 「hyper-QU」の実施とK-13法での分析・活用
- ウ 学校全体で「共同絵画」というエンカウンターを行い、集団づくりを行う。
- エ 甲州市「ティーチャーズノート」の活用

(3) 家庭学習の習慣化に関わって

- ア 家庭学習（自主学習）ノートの提出
- イ 甲州市「学習の手引き」の活用
- ウ 甲州市「学力UPのために」の活用
- エ 学舎タイムによる自主学習ノートの作成

【研究授業の実施】上記の（1）と（2）をふまえ、研究授業を行う。

学活（学級づくり，集団づくりに関わる授業）

教科（授業づくり，授業改善に関わる授業）

Ⅲ 成果と課題

「授業づくり，授業改善」「学級づくり，集団づくり」「家庭学習の習慣化」の3つの柱を立て，具体的な取り組みを行った。

授業づくりにおいては，NRT検査や全国学力学習状況調査，県学力把握調査の分析を行い，学校全体で情報を共有して課題を見つけた後，それを受けて研究授業を行うことができた。また，県の見通し・振り返り学習を取り入れ，「今日の目標」と「ポイント」を黒板に提示し，授業の流れやポイントをすべての教科で取り組むことができた。

学級づくりにおいては，授業規律の均等化を目指し，授業評価シートを活用して，毎時間，授業規律の向上を図ることができた。しかし，学年によって活用の仕方に温度差が見られたので，今後は生徒会とタイアップする中で，生徒の自主的な活動として行うなど，更なる取り組みの工夫が必要だと考えている。また，「hyper-QU」を実施し，K-13法で学年毎に分析を行い，改善の仕方を考えることで，チームとして生徒指導を行うことができた。また，全クラスが行事後に「共同絵画」という提示方式エンカウンターを行い，集団づくりの向上に取り組むことができた。

家庭学習の習慣化においては，各学年の取り組み方は異なるが，毎日自主学習ノートを集めて細かく指導することができた。また，全体的に数学と英語に対して，苦手な生徒が多いので，ボトムアップという意味で，「学舎タイム」という時間を3学期につくった。この時間は，数学と英語が苦手な生徒を1つの教室に集め，複数の教師で教えるという活動である。その他の生徒については，各教室で苦手な教科の自主学習に積極的に取り組ませた。最終的には，先輩が後輩に教えるなど，生徒同士の学び合いに発展させていきたい。来年度は，これらの質を更に高めると共に，朝読書の充実など，よい言語に触れさせる機会を多く持たせ，言語活動の充実を一層進めていきたい。

終わりに… 市のプロジェクトと連携していく中で，生徒の実態に合わせた勝沼中独自の取り組みを展開していくことにより，自ら考え，判断し，行動できる生徒の育成へとつなげていきたい。

（研究主任 天野秀太郎）